

2025年 参加者の声

受講講座名と感想



講義名 世界の難民政策をめぐる 虚構と現実

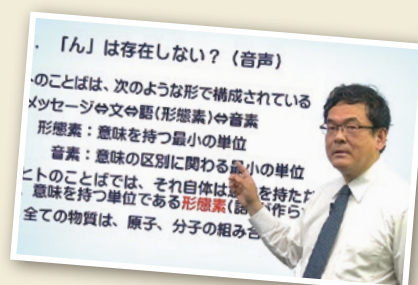
講義を聞いて難民や移民の現状について学ぶことができ、国際関係学や国際法により興味を持てました。受験で国際関係法学科を受けるか迷っていましたが、自分が興味を持っている学問だと認識できるきっかけとなりました。

高2

講義名 水を透して見る、 野生生物と生態系の 知られざる姿と未来

改めて自分が興味のあることを見つけて追求していくことが大切だと感じたので、いろいろな職業について調べたうえで進路を決めていきたいと思った。

高1



講義名 折紙がつなぐ、 芸術、科学、産業

工学系の進路を考えていたけれど、工学は工学のみでは終わらず、いろんな分野との関係性がおもしろいのだと知り、もっとたくさんを知りたいと思った。

高1

講義名 経済学で見せかけの 数字に騙されない リテラシーを身につけよう

経済学部で学べることがイメージできました。将来の夢も学部も迷っていたので決める一つの手がかりとなりました。

高2

講義名 皮膚を通して 自己免疫疾患の病態を知る

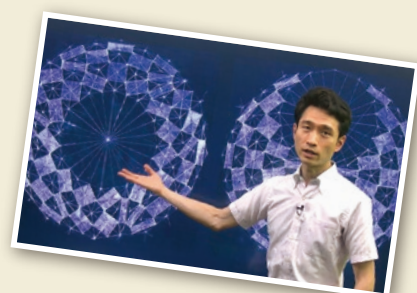
医療に関わる研究者の仕事について、より具体的に知ることができました。私は、将来医者になるために医学部に進みたいと考えていたが、医学部に進むということは医者だけでなく研究者としても働いていくということだと改めて感じました。

高1

講義名 ことばのしくみを 解き明かす

講義を受けて自分の進路選択の幅が広がった。日本語の知識を深めたいと思った。これから古典や、ら抜き言葉について調べようと思った。

高2



講義名 AI時代における 情報検索技術の課題

情報系の学部に行きたいとは考えていましたが、具体的にどこにするかは決まっていませんでした。しかし、今回の講義で選択肢が広がったと思います。

高1

講義名 命を救う数式

数学の視点から命を救う方法を導き出すことは一見難しそうに見えるけど、思考プロセスが整っていればそれに基づいて研究すればいいと知りました。医学部を目指しているので、検査の詳しい仕組みや乳がんの現状など多くのことが学べてよかったです。

高1

講義名 アニメにおけるDEIを考える —ヒーロー像とジェンダー—

将来教員になりたいと目標が決まってから「大学で教育関連の学問をする!」としか考えていませんでした。しかし、この授業を受けて、自分の趣味であるアニメを研究している人がいると知り、大学で学ぶものの選択肢が広がったと思います。

高1



講義名 「働くこと」の 意味について考える

講義を聞いて、働くことは楽しさと苦しさのどちらもあると聞き、働くことに目を向ける良いきっかけになりました。私は将来医者として多くの人を支えられるようになるために、医学部進学に向けて努力していきたいです。

高1

講義名 “読解力”の心理学 —読解力とはなにか・ どうすれば身につくのか—

大学では心理学を学んでみたいと考えているので、今回の講義は大学でどんなことを学ぶのかのイメージができました。今後の進路決定に生かしていくとともに、心理学に関するほかの情報もいろいろと調べてみたいと思います。

高1



大学で何を学び、
人生をどう生きるのか。
そのヒントが
きつと見つかる。

2008年初開催以降、のべ約9万人が受講 大学学部研究会 2026 オンライン講義

世界を動かしてきたのは 答えのない問いに人生を賭けた先人たちだ

大学学部研究会は、日本を代表する大学の一流教授陣の研究に触れ、大学での学びを体感できる貴重な機会です。研究者たちの本気の問いに触れることで、自分だけの問いを見つける第一歩になるはずです。この夏、人生をどう生きるのか、本気の進路選びの第一歩を踏み出してください。

受講期間 8/6(木)～8/15(土)
大学学部研究ウィーク

受講数 最大3講座受講できます

対象 東進生、夏期特別招待講習 受講生
高2生・高1生・高0生が対象
(高0生とは高校レベルの学力を持つ意欲のある中学生)

受講料 無料 ※申込方法、受講方法は所属校舎にてご案内いたします

法・経済・商・社会 労働法

労働時間法制的課題
—働きすぎを止めるには—

労働時間の上限規制や裁量労働制の見直しが課題となっている。実はほんの10年前まで、時間外労働に上限はなかった。長時間労働を容認する法制度は過労死を増加させ、女性を非正規労働にとどめ、労働市場の分断も生んだ。絶対的な上限が導入されたのは2018年が初めて。今後、働き手を守る公正な仕組みとは何かを一緒に考える。

東京大学大学院
法学政治学研究所・教授

神吉 知郁子先生

法・経済・商・社会 当事者主導共創学(当事者研究・学術の共同創造)

孤独をほどこ言葉をつくる
—解釈的不正義と当事者研究—

2012年以降、孤独感を抱える10代の割合が世界的に上昇しており、女性や自閉スペクトラム症等の少数派ではその程度が大きいとされる。一因は、社会の言葉やフレーズが男性やマジョリティの経験を表しやすく作られている「解釈的不正義」だ。女性やマイノリティが自身の経験を語り、共有することを難しくしているこの状況を、当事者研究という取り組みから考える。

東京大学先端科学技術
研究センター 附属
包摂社会共創機構・教授

綾屋 紗月先生

法・経済・商・社会 憲法学

人権と国家の不思議
—私とあなたが共に生きるために必要なもの—

2026年、世界各地で戦争が起きている。ロシアとウクライナ、イスラエルとイランは日々戦火を交え、それに比べ日本は平和な国だし、しかし、わずか80年ほど前の日本では、国のために戦い命を捧げることが美德とされていた。私たちが当然のように享受する平和は、数えきれない犠牲の上に成り立っている。なぜ人は争うのか、平和に生きるために何が必要なのかを皆さんとともに考える。

一橋大学
法学部・教授

江藤 祥平先生

法・経済・商・社会 経済学・ファイナンス

株価ってなんなの???

日経平均株価は15年前は8000円だったのに対して、2026年現在は6万円超。日本は8倍豊かになったのだろうか？ 株価は毎日乱高下し、ソフトバンクGやトヨタの株価が秒単位で変わる。そんなに企業の価値が変わるのだろうか。何かが間違っているとしたら、それは何か。一緒に考えてみよう。

慶應義塾大学大学院・
ビジネススクール・教授

小幡 績先生

法・経済・商・社会 経営学(人的資源管理)

いつもの日常から
一步外に出る越境学習入門

「越境学習」とは学校や家庭など日常とは違う場所に出て、新しい人や考え方に会って自分の可能性を広げる学びだ。社会人は会社や職場で同質的な人々と接し続けると固定観念が強くなる側面があり、この「越境学習」は企業での導入も拡大している。高校生にとっても探究活動やボランティアは小さな越境の場。自分らしい学び方や将来の選び方を見つけるヒントを紹介する。

法政大学大学院 地域
創造インスティテュート/
キャリアデザイン学部 教授

石山 恒貴先生

法・経済・商・社会 経済学(起業、イノベーション)

アントレプレナーシップ
—経済学が解き明かす「起業」の虚像と実像—

アントレプレナーシップとは「課題に気づき、新しいアイデアを考え、失敗のリスクを引き受けてでも行動して形にする姿勢」を意味する。日本では一度失敗すると再チャレンジしにくく、挑戦するやる気が制度面で生まれにくい。本講義では経済学の視点からその構造を解き明かし、イノベーションが社会を変えるメカニズムと、起業という選択が個人と社会にもたらすものを考える。

関西学院大学
経済学部・教授

加藤 雅俊先生

法・経済・商・社会 アメリカ政治外交、国際関係

「世界の盟主」をやめたアメリカ
—平和は可能か？—

アメリカ大統領に返り咲いたトランプ氏は、中小国の主権を軽視する言動を繰り返し、同盟を軽視する発言はヨーロッパや日本に不安を与えている。国内では「反多様性政策」のもと、マイノリティの積極採用が否定されるだけでなく、大学や研究機関、文化施設も抑圧や検閲にさらされている。トランプ政権下でアメリカの政治・外交・社会がどう変化しているのか、私たちはどう向き合うべきかを考える。

同志社大学大学院
グローバル・
スタディーズ研究所

三牧 聖子先生

法・経済・商・社会 家族社会学

ヤングケアラーとはどういう存在か？
現状と支援の課題

「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるだろうか。2024年の法律改正で社会的な支援の対象となったが、ケアの負担を軽減する代替サービスの拡充だけで問題は解決するの。この講義では支援の現状だけでなく、ケアが家族に偏重している構造的な問題にも目を向け、自分らしく生きることとケアとのバランスを考える。当事者意識をもって聞いてほしい。

立命館大学
産業社会学部・教授

高藤 真緒先生

人文・語学 歴史学

書物と出会う
—言葉と人間—

人はどんなきっかけで本と出会うのだろうか。かつて本が苦手な国語の成績も振るわなかった私は、大学に入ってようやく本の奥行きともしろさに気づかされた。本講義では活字が苦手な人にこそ向けて読書の豊かさを伝え、おすすめの作品も紹介する。さらに読書によって育まれる「批判的に考える力」にも触れたい。今の世界が唯一の姿ではなく、別の豊かな世界もありうると思像するきっかけになるだろう。

京都大学
人文科学研究所・教授

藤原 辰史先生

人文・語学 言語学・音声学・AI倫理

友だち以上、恋人未満？
AIとの適切な距離感を考えよう！

生成AIは勉強・翻訳・創作、個人的な相談にまで広がり、私たちの生活や学び方を大きく変えつつある。レポートを書く、英語を訳す、悩みを聞いてもらう—AIはすでにみなさんのすぐそばにあり、この流れは今後加速していくだろう。便利だからこそ、依存やハルシネーション、著作権、環境負荷など立ち止まって考えるべき問題もある。AIに使われるのではなく、AIをどう使うのかを一緒に考えよう。

慶應義塾大学
言語文化研究所・教授

川原 繁人先生

人文・語学 芸能研究(能楽)、演劇学

初心忘るべからず
—師弟間でわざはいかにして伝わるのか？—

「わざ」とは物事をうまくやり遂げる力のことだ。その「わざ」はどう伝わるのか、人はどう上達するのか。職人の暗黙知の解明やスポーツ選手の動作計測など、多くは「下手の克服」という視点に立つが、600年前、世阿弥は下手であることの可能性に注目し「初心不可忘」と説いた。本講義ではこの思想を能の稽古現場の観察研究と重ね合わせ、わざの熟達を考える。

立教大学 現代心理
学部 映像身体学科 教授

横山 太郎先生

理・工学 気候力学

最新の科学が解き明かす
異常気象と気候変動の関係

地球温暖化による1.5度上昇は実感しにくくても、異常気象の増加は多くの人が感じています。その関連性を科学的に証明するのは容易ではありませんが、最新の気候モデルとスーパーコンピュータにより解明が進んでいます。数値気候シミュレーションで極端気象の現状と未来に迫ります。

東京大学
大気海洋研究所
准教授

今田 由紀子先生

理・工学 バイオハイブリッドデバイス、ナノバイオテクノロジー

生きた細胞でつくる
未来のロボット

ロボットは金属やモーターだけでできていると思っていないだろうか。私の研究室では、生きた筋肉や皮膚、細胞の感覚を工学と組み合わせる「バイオハイブリッドロボット」を研究している。筋肉で動く手や二足歩行ロボット、皮膚で覆われたロボット、細胞を使ったセンサなどを通じて、生物と機械が融合する未来を紹介する。研究のおもしろさと、新しい学問を自分で切り開く楽しさを伝えたい。

東京大学大学院 情報
理工学系研究所 知能
機械情報学専攻 教授

竹内 昌治先生

理・工学 先端表現情報学

人と自然と情報が調和する
テクノロジーと体験デザイン

私たちの身の回りには、AIやロボット、センサなどの情報技術が急速に広がっているが、これからの社会で求められるのは単に便利で効率的な技術だけではない。本講義では、デジタルと物理世界をつなぐインタラクティブメディア技術の研究およびメディアアート作品を紹介する。工学・デザイン・アート・科学など分野の枠を越えて知をつなぐ視点から、人と自然と情報が調和する未来社会と一緒に考えたい。

東京大学大学院
情報学環
教授

寛 康明先生

理・工学 環境工学

未来の社会を支える
廃棄物・資源循環学

私たちが毎日出す「ごみ」は未来を支える大切な資源でもある。持続可能な社会の確立には、ごみを資源として上手に利用していかなければならない。現在、廃棄物・資源循環で生じている問題と、それを解決する取り組み(リサイクル技術、デジタル技術、カーボンニュートラルへの貢献など)を、身近な事例や最新の研究を交えて紹介する。「資源循環」の世界を通じて、持続可能な社会づくりと一緒に考える。

京都大学大学院 工学
研究所 都市環境工学
専攻・教授

高岡 昌輝先生

理・工学 獣医学、毒性学

進化が決める
動物の毒への強さと弱さ

私たちにとって安全な薬や化学物質でも、動物によっては強い毒性を示すことがある。本講義では解毒酵素の進化に着目し、動物種による化学物質感受性の違いを紹介する。哺乳類、鳥類、爬虫類の最新研究から、進化が生物の「毒への強さ」をどう形づくってきたのかを解説し、環境汚染や野生動物保全との関わりを考える。

北海道大学大学院
獣医学研究所・教授

石塚 真由美先生

理・工学 タンパク質工学

AIで生命分子をデザインする
—医療とバイオものづくりを変えるタンパク質工学—

体の中でのタンパク質は、遺伝子に書かれた情報が最終的に「働き」として現れる分子であり、病気を防ぐ抗体や化学反応を進める酵素として生命を支える主役である。本講義では、AIを活用しながら目的に合う生命分子をデザインするタンパク質工学を紹介する。医療やバイオものづくりの未来を、分子から変える研究のおもしろさを伝えたい。

東北大学
大学院工学
研究所・教授

梅津 光央先生

理・工学 素粒子宇宙物理学

宇宙線イメージングによる
未知の発見と社会課題への挑戦

宇宙から絶えず降り注ぐ素粒子ミュオンは、厚い岩盤やコンクリートも通り抜ける。この性質を利用する宇宙線イメージングは、X線では透過できないほど巨大な構造物の内部を、壊さず可視化する技術だ。クフ王ピラミッドの未知空間の発見、福島第一原子力発電所の調査を通じて、「見えないものを視る」技術が、考古学や防災・減災、社会インフラの維持管理にどう貢献するかを紹介する。

名古屋大学 大学院
理学研究科
准教授

森島 邦博先生

理・工学 人工知能(自然言語処理)

AIはどのように考えて話すのか？
—言葉と知能の不思議—

ChatGPTの登場で、AIはまるで「考えながら話している」ように振る舞う時代になった。能力は飛躍的に向上し、人間の代わりにプログラムを書いたり、難しい数学の問題を解くまでに進化している。AIはどのように言葉を理解し考えているのか。本講義では人工知能の仕組みを手がかりに「知能とは何か」という問いに迫り、高校で学ぶ数学・情報・英語との意外なつながりも紹介する。

東京科学大学
情報理工学院
情報工学系 教授

岡崎 直観先生

理・工学 航空宇宙工学

宇宙で膜構造を実現するための技術
—シワを予測し、監視する—

宇宙機はロケット打上げ時の激しい振動に耐える強さと軽さが不可欠だ。一方、巨大アンテナ等は小さく畳んで運び、宇宙で広げる「展開技術」が重要になる。本講義では、軽くて収納効率よく展開性にも優れた「薄膜」を用いた大型宇宙構造物と、そのミッション性能に影響する「シワ」を最新の研究で紹介する。数学や物理が、未来の宇宙開発を支える武器になる様子をのぞいてみよう。

大阪公立大学 大学院
工学研究科 航空宇宙
海洋系専攻 教授

岩佐 貴史先生

理・工学 農学(植物遺伝育種学)

DNAで何ができる？
—作物の育種と品種保護—

野菜や果物、米など作物には多くの種類があり、同じ種の中でもさまざまな品種が育成されている。これら栽培品種は人類が長い年月をかけて野生植物から作りだしたもので、この工程を「育種」と呼ぶ。講演では「次世代シーケンサー」「動く遺伝子」「DNAマーカー」「ゲノム編集」をキーワードに、最先端のDNA解析・ゲノム情報を活用した遺伝育種研究と品種保護の技術開発について説明します。

岡山大学 学術研究院
環境生命自然科学
学域・教授

門田 有希先生

理・工学 バイオマイクロシステム

ロボットは“育てる”時代へ
—細胞でつくる未来の機械—

高校では物理、化学、生物を別々の科目として学ぶが、最先端の研究ではその境目を越えて考えることが大切になる。本講義では、細胞を生物学的な「観察する対象」ではなく工学的な「ものづくりの材料」として使う研究を紹介する。生物の力と人工物の精密な設計技術を組み合わせ、未来の機械や医療・食の技術がどう変わるのかを話す。

早稲田大学 理工学術院
基幹理工学部 電子
物理システム学科教授

森本 雄矢先生

医・歯・薬 感染症内科学

メタ認知が
己を救う、かも。

メタ認知とは、自分の考え方や行動を一段上から客観的に見つめる力のことだ。これを使って「最終的にどうなりたいか」から逆算して考えれば、現状維持が最適解ではないとすぐ分かる。それでも多くの人は短期的な楽さを選び、長期的な辛さを避けたがる。私たちの本当の最適解はどこにあるのか、一緒に考えよう

神戸大学大学院
医学系研究科
教授

岩田 健太郎先生

医・歯・薬 医療薬学、臨床薬学

2人に1人ががんになる超高齢社会を
生き抜く臨床薬学と薬剤師のチカラ

日本人の二人に一人が、生涯のうちに一度はがんを経験すると言われる時代。患者の約半数が痛みに苦しむ中、「最期まで自分らしく生きる」ことをどう支えるかが問われている。超高齢社会の進展で薬を必要とする人は増え、薬剤師は医師や看護師と並ぶチーム医療の担い手として期待されている。薬をどう届け、研究を通してどう進化させるか。臨床と研究の現場から、薬学の魅力と可能性を話す。

九州大学
病院薬剤部 教授/
薬剤部長

内田 まよこ先生